

フィリア・レター

～真の友人からの手紙～



発行所:中部ろうさい病院

〒455-8530

名古屋市港区港明 1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

http://www.chubuh.rofuku.go.jp/



第2回白鳥・市民健康セミナーの活況

副院長 正木 道熹

平成24年3月25日、名古屋国際会議場白鳥ホールに花冷えの曇りが降る中300名を超える方々が参集しました。13時半、定刻に「がん医療の最前線」というテーマで、吉田純院長のあいさつとともに開演しました。トップバッターとして、村瀬賢一副院長が座長のもと、「乳がんって何」の演題で坂口憲史第二外科部長の講演が始まりました。まず、がん治療では患者に無痛の治療が得られるため、緩和治療との有機的な連携の必要性を話され、がん治療と緩和治療を同時に行い、進行がんにかかっても、苦痛が軽く長生きできるという考えでがん治療を行っていることと強調されました。安心できる治療を行うことでがんという病の恐怖を取り除いて治療を行っています。

乳がんは、肺がんに次ぎ登り急激に増加している、注目すべきがんです。

乳がんの発生メカニズムは、女性ホルモンにより卵巣、腎臓で生産されるエストロゲンが長期間に渡って刺激を受けることで発症しやすくなります。出産経験がなく、授乳経験がなく、初潮がはやく、閉経が遅い方々に発症し易く要注意です。自己チェックの仕方も話されました。

肺がんの治療では内科的治療を松尾正樹呼吸器内科部長、外科的治療を菅谷将一呼吸器外科部長が講演し、座長を河村孝彦副院長がつとめました。肺がんを小細胞がんとそれ以外のがんにわけてみることで、治療法に違いが出ます。小細胞がんの治療は呼吸器内科医の使命であり、進展が早く、再発しやすいのが特徴です。抗がん剤、分子標的薬、腫瘍血管増殖抑制薬使用と放射線治療の組み合わせで治療を行います。また非小細胞がんでは、扁平上皮がんへのEGFR上皮成長因子受容体変異の有無による治療や、外科手術における限局した肺がん、周囲リンパ節転移、肺門部、縦隔リンパ、遠隔部位のリンパ節転移の程度により適切な手術が、呼吸器内科と呼吸器外科のよき連携により行われるこ

とが大切です。

「脳腫瘍の3分の2は治る病気」の演題で榊原敏正神経内科部長が座長となり服部和良脳神経外科部長の講演で、よくなる脳腫瘍は外から脳実質を圧迫する腫瘍で髄膜腫、下垂体腫瘍、聴神経腫瘍があります。脳実質から発生する、内なる脳腫瘍である神経膠腫は予後不良です。ナビゲーション(CT,術中MRI)と内視鏡機器の使用、手術顕微鏡の使用で脳外科の手術が革新的に発展をしています。手術による合併症が極めて軽減し、患者の社会復帰に役立っています。

消化器がんの外科的治療の特別講演を座長小林建仁副院長のもと柳野正人名古屋大学腫瘍外科教授が行いました。胃がん、大腸がん手術の技術が革新し、腹膜転移がなければ手術が行えるようになりました。肛門手術も革新的技術ではほぼ肛門形成も可能になりました。食道がん手術も侵襲が少なく行えるようになりました。柳野教授は、胆管膵臓膵管手術では世界トップクラスです。手術を必要とする消化器がんは抗がん剤のみの治療では完治は全くないと強調されました。

聴講者は16時半まで、真剣に傾聴され、講演後、幾多の質問がありました。

基本的には早期発見、早期治療、禁煙と定期的健診の必要性を強調し、当院が愛知県がん拠点病院であるので、気軽に来院し精査を受けてほしいとし、終演になりました。



今月号のお知らせ

- ① 第2回白鳥・市民健康セミナーの活況
..... 正木 道熹
- ② 新任医師のご挨拶
..... 亀山 隆
..... 臼井 幸治
..... 小川 義和
..... 佐野 壘
- ③ 『相談支援センター』をご活用下さい！

- ④ 患者さんの声
..... 坂野麻美さん
- ⑤ 化学療法室ってがん患者さんだけが使うの？
..... がん化学療法看護認定看護師 後藤 真澄
- ⑤ 食事のときにむせる、痰が増えるなどの症状があれば
..... 摂食・嚥下障害看護認定看護師 廣瀬 みゆき
- ⑥ 患者さんへのサービス向上を目指して 山口千恵美
- ⑥ 編集後記
- ⑥ 当院の理念・当院の基本方針

～ 新任医師のご挨拶～



神経内科部長
亀山 隆

当院神経内科の初代部長の榊原敏正神経内科部長の定年退職に伴い、このたび後任として4月より赴任いたしました。前任地の岐阜県立多治見病院は岐阜県東濃地域の中核病院で、そこで多くの貴重な臨床経験を積むことができました。この経験を生かして当地での地域医療の質の向上と、かかりつけ医の先生との医療連携の発展に努める所存です。神経内科の病気は脳卒中、認知症やパーキンソン病などの老化に関係した病気や完治できない病気が多いですが、私は障害があっても「生きる力をひき出す」医療を心がけたいと思います。



心療内科
臼井 幸治

始めまして、東邦大学心療内科から中部労災病院心療内科に出向にきました臼井と申します。心療内科では主に、ストレスや悩みなどの心理的な問題によって起こる身体の病気(症状)を診る科です。ストレスがかかった場合、「こころ」「からだ」は互いに関連し合い、様々な症状を引きおこします。そうした患者様のお役にたてるよう診察では可能な限り時間をかけて診察するように心がけています。御用の際は遠慮なく受診して下さい。一年間という短い期間ではありますがどうぞ宜しくお願い申し上げます。



整形外科
小川 義和

今年の4月から中部労災病院に勤務しています。昨年は田舎の病院にいたので名古屋市内に移り環境もかなり変わりました。扱う疾患も今までとやや異なり脊椎関連の患者さんが多く私自身も勉強になっています。この地域の医療に多少なりとも貢献できるよう努力していきたいと思います。宜しくお願いします。



耳鼻咽喉科
佐野 壘

みなさんはどんなときに耳鼻咽喉科を受診しますか? 耳痛、難聴、鼻水や鼻血、嚔声などが多いですね。思い浮かべる病気は中耳炎、難聴、花粉症、副鼻腔炎、声帯ポリープなどでしょう。最近はさらに鼻、頬、口、あご、耳下腺、甲状腺、のどの癌もよく治療します。首にしこりができた、食事がのどにひっかかる、顔面が腫れた、口の中にできものができた、口内炎や舌の傷がいつまでも治らないときは迷わず耳鼻咽喉科を受診してください。

★「フィリア・レター」は、中部ろうさい病院が、患者さまに向けて当院の現況や新しい医療情報などを発信したり、患者さまの建設的な意見を反映する広場として発行しています。

『相談支援センター』をご活用下さい!

『相談支援センター』とは?

全国のがん診療連携拠点病院に設置されている「がんの相談窓口」です。当院は、平成23年2月より愛知県がん診療拠点病院に指定をされました。

相談支援センターは、患者さんやご家族のほか、どなたでも無料でご利用いただけます。がん診療連携拠点病院で診療を受けていない方もご利用いただけます。相談の内容としては、病気やその治療法、治療後の生活、医療費のことなど、がんの療養に関する様々な疑問や悩みの解決に向けて専門の相談員が対応いたします。しかし、相談員が担当医に代わって、患者さんの病気の診断や治療法を決定することはありません。

当院では、『相談支援センター』をよろず相談室内に設置しております。医療ソーシャルワーカーや看護師が皆様のお話を伺い、一緒に考え、課題解決のお手伝いをさせていただきます。また、お話をお伺いし、専門の看護師やスタッフをご紹介しますことができます。

ご相談に来られる際には、事前にお電話でのご予約を取っていただくことをお勧め致します。ご予約を取っていただくことにより、お待たせせずにお話をお伺いすることができます。

また、相談支援センター内には、がんに関する書籍や資料等も置いてありますので、お気軽にお越し下さい。

◆相談内容、たとえば…

- ・がんと言われて頭の中が真っ白です。これからのことを考えると不安で一杯。
- ・先生から病気のことを説明されましたが、難しくてよくわかりません。
- ・治療や手術にかかる費用が心配。高額療養費制度について知りたい。
- ・家族を家で介護したい。
- ・退院することになったけれど、自宅でどうしたらいいのか…。
- ・往診の先生って頼めるの？
- ・緩和ケア外来ってなに？手続きはどうしたらいいのか？
- ・ホスピスについて知りたい。予約はどうしたらいいのか？
- ・セカンドオピニオンを受けたいけど、どうしたらいいのか？

～相談支援センター（よろず相談室内）のご案内～

【場所】診療棟1階、よろず相談室内（救急外来受付前）

【相談時間】月曜日～金曜日：午前8時15分～午後5時

【予約受付】月曜日～金曜日：午前9時00分～午後4時

【休み】土・日曜日、祝祭日、年末年始(12月29日～1月3日)

【電話番号】052-652-5511（代表）内線3031

【担当者】医療ソーシャルワーカー、看護師



★中部ろうさい病院のホームページで、〈病院の情報〉〈フィリア・レター〉〈ろうさい病院つうしん〉がご覧いただけます。携帯電話からもアクセスできます。どうぞ、ご利用ください。

～ 患者さんの声 ～

健康である事が自慢だった私が、体調を崩し心療内科に通う事になってしまいました。めまい、吐き気、手足の冷えなど、様々な症状が私を襲い、一体私の身に何が起こったのかと不安な日々をおくりました。診断の結果は、病名がつかないくらいのストレスだそうで、先生には、今日来た患者さんの中で、あなたが一番元気だね、と言われ少しほっとしたのを覚えています。先生に処方される薬を飲むうちに、だんだん良くなり、治療の最終段階として“自律訓練法”というものを取り入れてみようという提案されました。自律訓練法とは、リラックスを目的とした自己コントロール法で、不安や緊張、不眠、頭痛、肩こりなどにとても効くらしいのです。小さな子供が2人いる私にとって、自分が体調を崩している場合ではなく、早く元気にならなくてはという思いで焦っていましたが、自律訓練法をじっくり学んで、元気になっていこうと決意しました。訓練は2ヶ月間で合計8回病院に通い集団で公式を覚えていくというものでした。公式には、“手足が重たい、温かい”等いくつかあり、目を閉じ、姿勢をとって、心の中で公式を唱えようと体がリラックスして、それによって心もリラックスするというもので、最初はインチキくさいとか、本当に効くのだろうかと思う方もたくさんいるそうですが、自分で試

してみないと気が済まない私は、疑う事もなく習得する為に、毎日何回も何回も練習を積み重ねました。訓練を行う上で、減薬していくので、心が折れそうになる事もしばしばありましたが、徐々に体調が良くなっていっていると実感があったので、毎日欠かさず、自立訓練を頑張り、今では自分のものになったと思っています。心療内科に通院した事で、生活の仕方、考え方、色々な事を振り返るようになりました。小さな子供がいるからストレス解消ができないとか、子育て中は、睡眠も不十分なのはしょうがないとか、1人の時間がどうしても欲しい私は、子供が寝た後、テレビを観たり、インターネットをしたり…様々なシーンで子育てを言い訳にしてきたのです。でも、それは違う。もっとうまいやり方があり、気をつけていれば、体調を崩さずに済んだのかもしれない。しかし、自律訓練を学び体調が良くなるだけでなく、たくさんの“気づき”を与えてもらったのは、心療内科に通ったからだと思います。芦原先生やスタッフの方々に感謝します。心と体はリンクしている。この先の長い人生、心身共に健康であり続ける事を一番に願ひ、これからも自律訓練を生活の中に取り入れ、子供達に教えていくのが、これからの私の目標です。

(坂野麻美さん)



化学療法室ってがん患者さんだけが使うの？

がん化学療法看護認定看護師 後藤 真澄

皆さまは、化学療法という言葉を知っていますか？化学療法とは、広い意味では抗生物質で感染症を治療することも含んでいますが、最近では「がん」に対する薬剤治療をさしていることが一般的です。当院の化学療法室でも、がん患者さんの抗がん剤治療が最も多いのですが、最近では分子標的薬という薬剤を使用する方も増えてきました。

抗がん剤は、がん細胞をやっつける薬剤ですが、どうしても正常な細胞にも影響が出ます。一方、分子標的薬は、がん細胞がどのように増えるかということの研究し、がん細胞が増えないようにするために開発された薬剤で、がん細胞だけに作用します。

この研究から、分子標的薬は、がんだけでなくリウマチや潰瘍性大腸炎など、自分の細胞を攻撃する病気の治療薬としても開発が進んでいます。つまり、分子標的薬の中には、がんに対する薬剤とその他の病気に対する薬剤があるということです。ですから、がんの患者さんだけでなく、リウマチ等の患者さんにも化学療法室をご利用頂いています。

また、化学療法室にはボランティアさん作成の帽子や栄養補助食品に関する資料をご覧頂ける「患者サロン」を設けています。どなたでもご利用頂けますので、どうぞおこし下さい。

食事のときにむせる、痰が増えるなどの症状があれば

摂食・嚥下障害看護認定看護師 廣瀬 みゆき

「食事のときにむせる」「喉がいがらっぽい・ひっかかった感じがする」「風邪もひいていないのに夜にせきがでる」などの症状は、飲み込みに問題がある嚥下障害の可能性がります。

嚥下障害は、水とゼリーを使った簡易的なテストで評価することができます。評価結果から、適切な食事の食べ方や食事の形態を説明させていただきます。当院では、食事を食べながら評価できる嚥下内視鏡・嚥下造影の検査も実施しております。さら

に、食事の調理方法・嚥下障害に関連した食事の購入方法については、管理栄養士から説明させていただきます。

年齢を重ねるとむせやすくなり、食べたいものを我慢し、お茶や水分を控えてしまう方もいます。また、抵抗力が低下している人は、むせた食事が気管に入ると誤嚥性肺炎をおこしやすくなります。一緒にお食事されているご家族の方でも、気になることがありましたらいつでもご相談ください。

患者さんへのサービス向上を目指して

看護部長 山口 千恵美

患者サービス委員会では、患者さんにより満足していただける病院になることを目指して、1) 患者満足度調査、2) 退院時アンケート調査、3) 外来待ち時間調査を実施しています。いつもアンケート調査にご協力いただき有り難うございます。

1) 「患者満足度調査」につきましては、平成16年度より全国の労災病院34施設で調査に参加しています。毎年9月に、外来患者さん(2日間)と入院患者さん(1ヶ月間)へのアンケート調査を行い、当院についての率直なご意見をいただいています。アンケート調査結果の「患者満足度」は、「全体としてこの病院に満足しているか」について、「たいへん満足」・「やや満足」の割合としています。表1の患者満足度調査結果の推移では、外来患者さんでは19年より75%以上、入院患者さんでは平成20年度より90%以上を超え、高い数値を維持しています。課題は沢山ありますが、入院では「受持医師・看護師の変更時の説明」、外来では「説明の分かりやすさ」等の改善に取り組んでいきたいと思ひます。

表1 患者満足度調査結果の推移(%)

	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
全体	68.7	72.3	72.8	80.8	81.5	82.0	83.1	81.2
入院	74.8	82.5	89.0	89.0	93.8	93.9	93.7	93.2
外来	65.4	68.5	66.9	78.6	75.5	77.5	78.2	77.5
備考		病棟完成		外来棟完成				

表2 外来待ち時間調査(分)

	実施期間	診察待ち		採血 (受付～採血開始)	会計	処方
		予約有	予約無			
22年度	H22. 11/15～11/19	8	75		11	17
23年度	H24. 1/16～1/20	23	39	22	11	27

～～ 編集後記 ～～

若葉青葉をわたる風も快く感じられる季節となりました。

さて、フィリア・レターでは、「患者さんの声」や、「リハビリテーション科・生活講座」において患者さんの声を載せさせていただいております。毎度のご協力をありがとうございます。患者さんの声をお聞きできるのは、私達、職員にとっても大変勉強になります。

当広報誌で少しでも皆さまが当病院を身近に感じることができるよう、邁進してまいります。今後ともよろしくお願ひいたします。(T.N)

当院の理念

皆さんとの出会いを大切にし、苦しみを分かち合い、健康で潤いある生活を送れるよう職員一同努めます。

当院の基本方針

- ・ 医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・ 生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・ 人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・ 地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・ 災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

